

2019

年度

授業概要

科目名	言語聴覚障害概論						授業の種類	演習	必修・選択		必修
授業回数	30	回	時間数	60	時間	2	単位	配当学年時期	1年	通年	
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>言語聴覚士の専門性を理解し、どのような患者さんにどのような評価・診断・訓練を行うのか説明できる。</p> <p>【実務者経験】</p> <p>言語聴覚士として池田病院に勤務、高次脳機能障害・構音障害・嚥下障害分野のリハビリに従事経験。</p>											
<p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>言語聴覚障害の基礎知識を学び、言語聴覚療法の実際について理解することが出来る。評価・診断および臨床の流れと基本的な手法を理解し、国家試験に即した基礎的知識を身につける。</p>											
<p>〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕</p> <p>言語聴覚士がどのような仕事であるか誰にでもわかる言葉で説明できる。</p> <p>言語聴覚士が行う一連の流れを説明できる。国家試験に対応する問題を解くことが出来る。</p>											
回数	講義内容										準備物(教材)
1	言語聴覚士について説明できる（言語聴覚障害と言語聴覚士の対象・年齢）										ワーク用紙
2	言語聴覚士について説明できる（言語聴覚士に求められる資質と能力）										
3	言語聴覚障害学について説明できる（学問分野、教育、種類）										
4	コミュニケーションの成り立ちについて説明できる										
5	言葉をどのようにして発するのか説明できる										
6	飲み込みと摂食嚥下機構について説明できる										
7	聞こえと聴覚機構について説明できる										
8	言語と脳について説明できる										
9	失語症について説明できる（症状、タイプ）										
10	失語症について説明できる（検査・訓練）										
11	高次脳機能障害に伴うコミュニケーション障害について説明できる										
12	高次脳機能障害の症状についてどのようなものがあるか説明できる										
13	声が出る仕組みについて説明できる										
14	構音障害、吃音について基本概念を説明できる										
15	摂食嚥下障害の発症メカニズムについて説明できる										
16	聴覚障害の概念について説明できる										
17	言語聴覚療法の基本理念について説明できる										
18	言語聴覚士の職務、倫理について説明できる										
19	言語聴覚士法について説明できる										
20	言語聴覚士の発展について説明できる										
21	言語・コミュニケーションの標準的発達について理解できる										
22	言語発達障害の概要とおおまかな臨床の流れについて理解できる										
23	言語発達に係る主な検査について、名称と目的・内容をおおまかに理解できる										
24	言語発達段階・障害別評価および支援方法について理解できる①										
25	言語発達段階・障害別評価および支援方法について理解できる②										
26	言語発達段階・障害別評価および支援方法について理解できる③										
27	言語発達障害児に対する働きかけの諸技法について、具体的なアプローチ方法を理解できる①										障害児への専門的指導法DVD
28	言語発達障害児に対する働きかけの諸技法について、具体的なアプローチ方法を理解できる②										障害児への専門的指導法DVD
29	言語発達障害児の養育・地域支援について概要を理解できる										
30	小テスト・総まとめを行い、言語発達障害について理解を深め、定期テストに備える										
	定期試験										
【使用教科書・教材・参考書】配布資料											
【準備学習・時間外学習】授業内容の復習が必要です。											
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】											
<p>試験の結果を100点満点として成績を評価する。</p> <p>レポートの評価を40点、定期試験を60点として合計100点とする。</p> <p>60点以上の場合に科目を認定する。</p>											